

第13回印旛沼流域環境・体験フェアに出展しました

水利工学研究領域 水環境担当主任研究員 人見忠良

(フェアの概要)

印旛沼の水質浄化を啓発し、健全な水循環の再生のための取り組みを実践する契機とすることを目的として、印旛沼流域環境・体験フェアが開催されました。本年の第13回フェアでは、印旛沼の水質保全に関わっている産学官の70団体が集まり、来場した市民に向けてそれぞれの取組を発信していました。農工研では印旛沼で実施中の水質の遠隔モニタリングに関するブース出展を行いました。会場では環境学習の場を設けたり、地元農産物の販売を行ったりと、様々な世代の人が楽しめるイベントも催され、活況を呈していました。今回のフェアへの来場者数は5,300人と、過去最高を記録したそうです。

(農工研の出展内容)

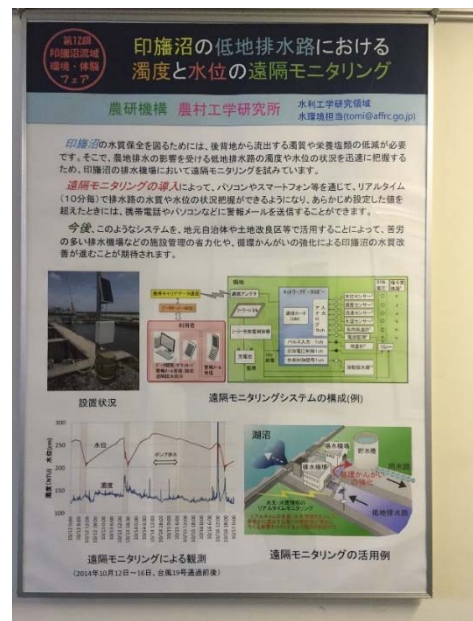
農林水産省が印旛沼周辺の農地を対象に実施している印旛沼二期農業水利事業では、老朽化した水利施設の更新に合わせて、農地排水の灌漑用水への循環利用を強化することで水源である印旛沼の水質保全を図ることを目的の一つとしています。これは、従来から農業用水として利用していた印旛沼の水に加えて、農地排水が集まる低地排水路の水を農業用水として再利用することで、印旛沼に流出する負荷の削減を目指すものです。農工研では、この循環灌漑の水質保全効果を高めるため、低地排水路の水質と水位を遠隔で監視する機器を現地に設置しています。本フェアではこのモニタリングのリアルタイムの測定値をブース内で展示し、研究内容の紹介を行いました。

(市民の皆さんの反応)

印旛沼周辺の住民や農家の方々、大学関係の方々およびNPOの方々が多数農工研ブースにお立ち寄りいただき、私たちの説明をお受け下さいました。特に皆さんの関心が高かったのは、身近な存在である印旛沼の水質はどのような状況なのか、農地での水利用が印旛沼の水質にどのように影響を及ぼしているのか、水質のモニタリングを今後どのように活かしていくのか、といった点です。私たちからは、最近の印旛沼の水質の傾向や、印旛沼二期農業水利事業の用排水の仕組みと農工研の研究内容についてご説明しました。普段、農業に接することが少ない市民の方々とともに、農業水利施設の仕組みと役割や農業用排水と地域の水循環との関係について共に考える良い機会となりました。



市民の方々への説明の様子



展示した研究紹介パネル